

水田用除草剤

モゲトン[®] 粒剤



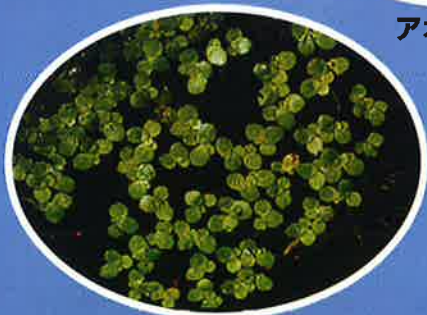
ウキクサ・アオミドロ・
表層はく離・ヒルムシロ の専用除草剤



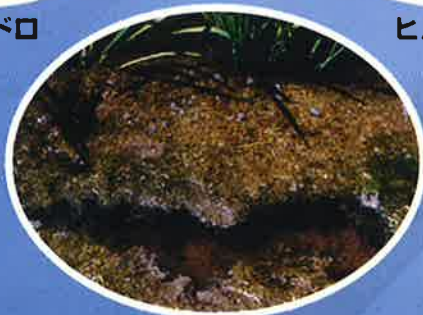
アオミドロ



ヒルムシロ



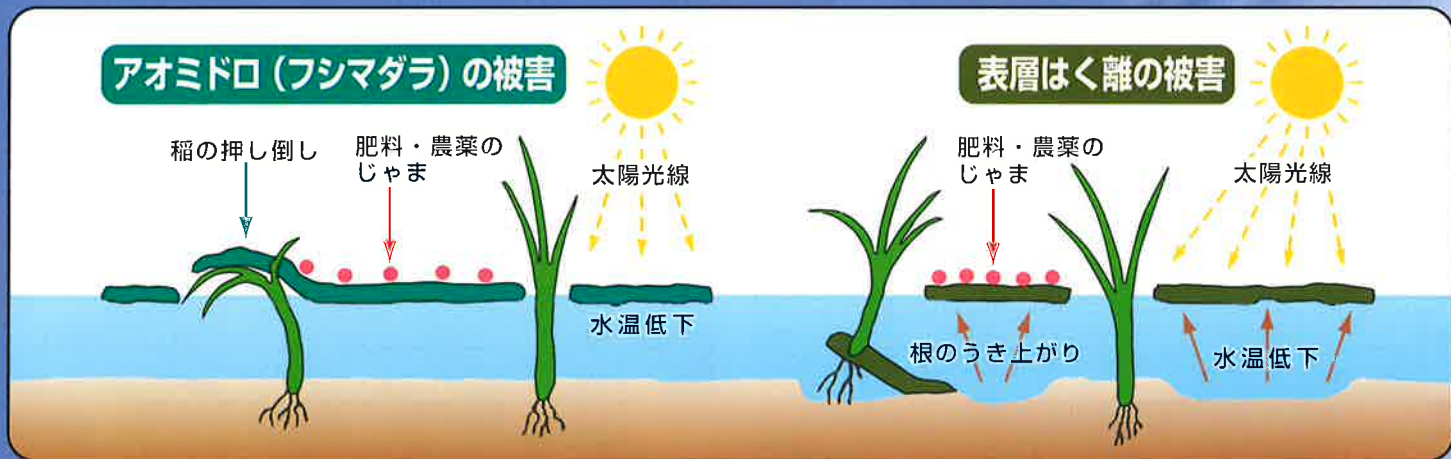
ウキクサ



フシマダラ



表層はく離



アグロ カネショウ株式会社

東京都港区赤坂4-2-19

®はアグロ カネショウ(株)の登録商標

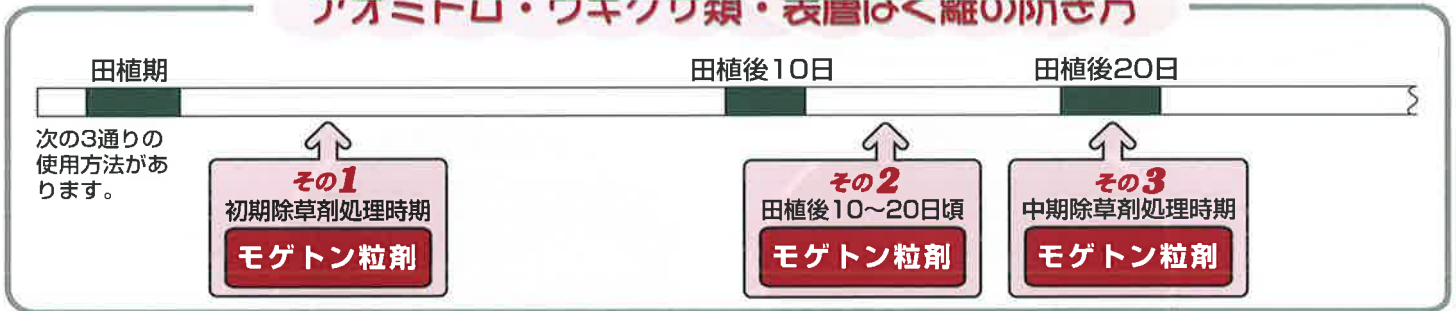
アオミドロ(フシマダラ)・ウキクサ・表層はく離・ヒルムシロの防除に困っていませんか？

■適用作物と使用方法

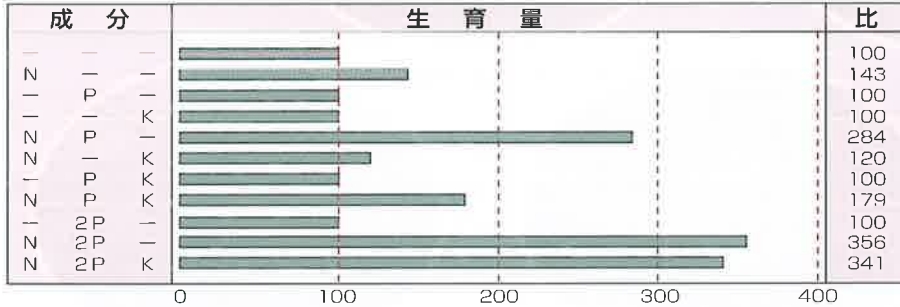
作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ACNを含む農薬の総使用回数
移植水稻	ウキクサ類 藻類 (アオミドロ、アミミドロ)	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 但し、収穫45日前まで	2～3kg/10a	3回以内	温水散布又は、 無人ヘリコプターによる散布	3回以内
	藻類 (アオミドロ、アミミドロ)	藻類・表層はく離の発生時 但し、収穫45日前まで	2kg/10a		水口施用	
	藻類による表層はく離		1～2kg/10a			
	藻類による表層はく離					
	ウリカワ	ウリカワの増殖初期(2～4葉期) 但し、収穫45日前まで	3～4kg/10a			
	ヒルムシロ	ヒルムシロの発生始～増殖始 但し、収穫45日前まで				
直播水稻	アオミドロ・藻類による表層はく離	稲1葉期以降、アオミドロ、表層はく離 発生時 但し、収穫45日前まで	1.5～2kg/10a		温水散布又は、 無人ヘリコプターによる散布	
れんこん	ウキクサ類	ウキクサ類の発生始～発生盛期 但し、収穫45日前まで	2～3kg/10a	1回		1回
くわい	ウキクサ類	ウキクサ類の発生始～発生盛期 但し、収穫60日前まで	3kg/10a			
せり	ウキクサ類 藻類 (アオミドロ、アミミドロ)	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 但し、収穫45日前まで	2～3kg/10a			

平成28年11月2日現在

アオミドロ・ウキクサ類・表層はく離の防ぎ方



■緑藻(アミミドロ)の生育繁殖と肥料成分との関係(千葉農試)



有機物の多い水田、N肥料を多く施した場合、有機リン酸が多い場合に藻類の発生が多い。
Nの存在下で、Pを添加した場合、生長が促進されPの量が多い程著しい。
P又はK単用では生育に及ぼす影響は殆ど見られなかった。

■試験方法

N：硝安100mg/l
P：燐酸二ナトリウム40mg/l
K：塩化加里45mg/l
処理：6月18日
左図は6月18日～27日の間の生育度である。

▲効果・薬害等の注意 ●使用前にラベルをよく読む ●ラベルの記載以外には使用しない ●小児の手の届く所には置かない

- 土壌条件による影響は少ないですが、極端な砂質土(極端な漏水田)では使用しないでください。
- 水稻及びれんこんに使用する場合は、温水状態で散布し、散布後は少なくとも3～4日間はそのまま温水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- れんこんに使用する場合、浮き葉に薬害が生じることがあるので、立葉発生前の使用はさけてください。なお、立葉発生後に処理した場合であっても一時葉の退色がみられることがありますが、その後の生育収量には殆ど影響は認められません。
- くわいに使用する場合は、薬剤が葉に付着すると葉斑がみられることもありますが、その後の生育収量には殆ど影響は認められません。
- 水稻が水没するような深水で使用すると薬害を生じることがあるので、通常の温水状態を保ち、必ず稲の葉先が水面上に出ている状態で使用してください。
- ウキクサ類、藻類には発生始～発生盛期に使用してください。ウキクサ類のうちイチョウウキゴケ(イチョウモ)には効果が劣ります。
- ウリカワには増殖初期(2～4葉期)までに使用し、ウリカワの水没する程度温水してください。処理時期の遅れた場合には、所定量の範囲内で多めに使用してください。
- ヒルムシロには発生始～増殖始に使用してください。
- 本剤を水口施用する場合、予め圃場の水位をできるかぎり低下させてください。二枚重ねのネット(イネ粗ネット程度のメッシュ)に所定量を充填し、薬剤が十分溶け出すよう水の吐出部近くに設置した後水口を開栓し、5～7cm程度温水を行い閉栓してください。なお、水口が複数ある場合は等分してネットを設置して下さい。
- 無人ヘリコプター散布をする場合は、次の事項に注意してください。
 - ① 散布は使用機種基準に従って実施してください。
 - ② 事前に薬剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整してください。
 - ③ 粒剤散布装置を使用する場合は当該水田周辺部への飛散防止のための

- 散布装置のインペラ(スピナ)の回転数を低速に調整してください。
- ④ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布してください。
- ⑤ 水源池、飲料用水等に薬剤が飛散、流入しないよう十分注意してください。
- 畜に對して影響があるので、周辺の糞尿にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望まれます。

▲安全使用上の注意

- 散布の際は農業用マスク・手袋・長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 眼に對して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 魚毒性…水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。養殖池等周辺での使用はさけてください。水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意してください。散布後は水管理に注意してください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…密閉し、直射日光をさけ、食品と区別して冷蔵・乾燥した場所に保管してください。